

III 業績

1 兵庫県立農林水産技術総合センター研究報告（Web 版）に掲載した事項

発表年月	内 容	掲 載 箇 所	提 供 者 名	所 属
R 2. 9	兵庫県播磨灘海域における水温の統計学的評価方法の検討	兵庫県立農林水産技術総合センター研究報告 3: 8-17, 2020	高倉良太・宮原一隆・原田和弘	水産環境部

2 外部に発表した事項

(1) 学会誌等

発表年月	内 容	雑 誌 名	提 供 者 名	所 属
R 2. 10	Utilizing conductivity of seawater for bioelectric measurement of fish	Scientific Reports 10, Article number 16363	才木常正・瀧澤由佳子・宮原一隆・有馬正和	水産環境部ほか
R 3. 1	イカナゴの肥満度に及ぼすホルマリン固定の影響	日本水産学会誌 87 (1), 40-42	西川哲也	水産環境部
R 3. 2	Annual variation in condition factor of sand lance <i>Ammodytes japonicus</i> during the estivation period in Harima-Nada, eastern Seto Inland Sea, Japan	Regional Studies in Marine Science 42, Article number 101644	西川哲也・岡本繁好	水産環境部ほか
R 3. 2	播磨灘におけるイカナゴ当歳魚の胃内容物重量指数の経年的低下とその要因	水産海洋研究 85 (1), 24-32	橋口晴穂・西川哲也・魚住香織・古澤一思・森 敦史・今尾和正・反田 實	水産環境部ほか
R 2. 10	Exploring a legendary giant squid: an environmental DNA approach	Marine Biology 167 (11), Article number 160	和田年史・土居秀幸・東垣大祐・海田竜太郎・永野真理子・片野 泉・鈴木雅巳・大谷徹也・三橋弘宗	但馬水技ほか

(2) 学会等講演会

なし

(3) 研究会・資料集等

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
R 3. 3	瀬戸内海の貧栄養化と漁業生産	第 55 回日本水環境学会年会併設研究集会	反田 實	
R 3. 3	播磨灘北西部における陸域からの栄養塩供給が二枚貝養殖漁場の生産力に及ぼす影響の解明	令和 2 年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発 (1) 栄養塩の水産資源に及ぼす影響の調査報告書	原田和弘・宮原一隆・岡本繁好・高倉良太	水産環境部、水産増殖部

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
R 3. 3	有害プランクトンの出現動態監視及び予察技術開発 瀬戸内海東部	令和 2 年度漁場環境改善推進事業のうち「赤潮被害防止対策技術の開発」報告書	秋山 諭・辻村裕紀・田中咲絵・近藤 健・中嶋昌紀・宮原一隆・高倉良太・山下泰司・高木秀蔵・乾 元基・越智洋雅・小川健太・吉田和貴・朝田健斗・加藤慎治	水産環境部ほか
R 2. 9	兵庫県内海における 2019 年および 2020 年の漁況	第 51 回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議報告	西川哲也	水産環境部
R 3. 3	浅海定線観測結果	瀬戸内海ブロック令和 2 年度浅海定線観測等担当学会議事録（抄）	高倉良太 他 28 名	水産環境部
R 2. 8	兵庫県（姫路市、たつの市、相生市、赤穂市、高砂市）におけるマガキ養殖の現状と課題	広島・兵庫・香川・岡山カキ養殖情報交換会	谷田圭亮	水産増殖部
R 3. 1	兵庫県におけるノリ養殖等の概況および試験研究項目	令和 2 年度瀬戸内海ブロック水産業関係試験研究推進会議藻類情報交換会資料集	谷田圭亮・岡本繁好	水産増殖部
R 3. 3	有害プランクトンの出現動態監視および予察技術開発 日本海西部海域	令和 2 年度漁場環境改善推進事業「赤潮被害防止対策技術の開発」報告書	木原浩志・南部智秀・清家 裕・渡辺秀洋・松本洋典・谷口祐介・鈴木雅巳・鬼塚 剛・坂本節子	但馬水技ほか
R 3. 3	ズワイガニの標本船調査から得られた漁期別投棄尾数	令和 2 年度 EEZ 内資源・漁獲管理体制強化事業（資源管理計画等の高度化に関する調査事業）報告書	田村一樹	但馬水技

(4) 研究会（大会・研究会）等講演

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
R 2. 7	水産エコラベルとは	大輪田塾	反田 實	
R 2. 8	なぜイカナゴは減ってしまったのか？ー減少のシナリオー	兵庫県環境保全管理者協会	反田 實	
R 2. 10	豊かな瀬戸内海再生調査事業の成果	兵庫県水産振興議員連盟・JF グループ懇談会	反田 實	
R 2. 10	兵庫県豊かな瀬戸内海再生調査事業について	環境省水・大気環境局	反田 實	
R 2. 11	瀬戸内海の貧栄養化と漁業生産について	名城大学大学院総合学術研究科	反田 實	
R 2. 11	兵庫県瀬戸内海の栄養塩類濃度の低下と漁業生産	播磨灘等環境保全協議会幹事会	反田 實	
R 2. 11	イカナゴ漁獲量と栄養塩環境	瀬戸内海関係漁連・漁協連絡会議	反田 實	
R 2. 12	陸上生態系と海洋生態系の違い	兵庫県立明石北高校 SSH	反田 實	
R 3. 1	イカナゴ漁業から見た瀬戸内海東部の水産業の現状と今後の在り方について	令和 2 年度瀬戸内海環境保全協会賛助会員座学研修会	反田 實	
R 3. 3	瀬戸内海の漁業実態と栄養塩類環境	水産庁	反田 實	

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
R 3. 3	瀬戸内海におけるイカナゴ漁の現状と再生を目指して	名城大学と中部電力の産学連携活動「貧栄養化問題の解決に向けた意見交換会」	反田 實	
R 3. 3	貧栄養化とイカナゴ	環境省（環境大臣視察）	反田 實	
R 2. 6	最近の赤潮発生状況について	赤潮対策連絡会議幹事会	宮原一隆	水産環境部
R 2. 10	貝毒安全対策強化事業進捗報告	令和2年度貝毒安全対策連絡協議会	宮原一隆	水産環境部
R 2. 12	兵庫県における赤潮・貝毒の発生状況	令和2年度漁場環境保全関係研究開発推進会議赤潮貝毒部会	宮原一隆	水産環境部
R 2. 12	兵庫県海域におけるマガキの麻痺性貝毒の減毒動態と出荷自主規制期間短縮の可能性	令和2年度漁場環境保全関係研究開発推進会議赤潮貝毒部会	宮原一隆・大石賢哉・及川 寛	水産環境部ほか
R 3. 1	R2年度ノリ漁期における <i>Eucampia zodiacus</i> の発生予測とその他の情報	養殖ノリの色落ち中期予測等情報交換会	宮原一隆	水産環境部
R 3. 2	有害プランクトンの出現動態監視および予察技術開発 瀬戸内海東部	令和2年度漁場環境改善推進事業のうち「赤潮被害防止対策技術の開発結果検討会	秋山 諭・辻村裕紀・田中咲絵・近藤健・中嶋昌紀・宮原一隆・高倉良太・山下泰司・高木秀蔵・乾 元基・越智洋雅・小川健太・吉田和貴・朝田健斗・加藤眞治	水産環境部ほか
R 3. 2	今漁期のイカナゴ試験操業結果について	令和3年播磨灘船曳網漁業連合会正副会長・行使委員・地区代表者会議	西川哲也	水産環境部
R 3. 2	今漁期のイカナゴ親魚・稚仔調査結果および漁況予報について	令和3年漁期第1回大阪湾3地区船曳役員合同会議	魚住香織	水産環境部
R 3. 2	今漁期のイカナゴ親魚・稚仔調査結果および漁況予報について	令和3年播磨灘船曳網漁業連合会正副会長・行使委員・地区代表者会議	魚住香織	水産環境部
R 3. 2	今漁期のイカナゴ親魚・稚仔調査結果および漁況予報について	令和3年漁期第1回大阪湾3地区船曳役員合同会議	魚住香織	水産環境部
R 3. 2	今漁期のイカナゴ親魚・稚仔調査結果および漁況予報について	令和3年漁期いかなご船びき網漁業の操業に関する打ち合わせ会議	魚住香織	水産環境部
R 3. 2	今漁期のイカナゴ試験操業結果について	令和3年漁期第2回大阪湾3地区船曳役員合同会議	魚住香織	水産環境部
R 3. 3	今漁期のイカナゴしんこ漁の網揚げについて	令和3年播磨灘船曳網漁業連合会正副会長・行使委員会	魚住香織	水産環境部
R 3. 3	今漁期のイカナゴしんこ漁の網揚げについて	令和3年播磨灘船曳網漁業連合会正副会長・行使委員・地区代表者会議	魚住香織	水産環境部
R 2. 8	鹿ノ瀬海域の底質環境について	鹿ノ瀬役員会	高倉良太	水産環境部
R 3. 1	2020年の播磨灘の漁場環境	養殖ノリ色落ち中期予測等情報交換会	高倉良太	水産環境部
R 3. 3	ノリ養殖漁場周辺におけるクロダイの行動について	すまうら水産有限責任事業組合（神戸市漁協）、日本海洋株式会社	高倉良太・谷田圭亮	水産環境部、水産増殖部

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
R 2. 11	明石海峡の漁業	一般財団法人 明石コミュニティ創造協会 あかし楽歴史講座「諸学諸相の歴史から見た明石Ⅱ」	堀 豊	水産環境部
R 2. 7	フリー配偶体を長年に渡って培養し続けると受精能力や発芽能力は低下するのか？	南あわじ漁協ワカメ種苗生産技術研修会	岡本繁好	水産増殖部
R 2. 12	兵庫県室津漁港のアサリ養殖	一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所第 14 回調査研究成果発表会	増田恵一	水産増殖部
R 2. 7	ノリ食害調査（令和元年度漁期）結果の概要	南淡漁業協同組合	谷田圭亮	水産増殖部
R 2. 8	ノリ食害調査（令和元年度漁期）結果の概要	神戸市漁業協同組合須磨浦漁友会	谷田圭亮	水産増殖部
R 2. 9	兵庫県の「マガキ養殖」－新たな試みでピンチをチャンスに－	日本技術士会近畿本部関西食品技術士センター例会	谷田圭亮	水産増殖部
R 2. 10	ノリ食害調査の結果概要と今後の調査	神戸市のり協議会 令和2年度海苔養殖漁期前研修会	谷田圭亮	水産増殖部
R 2. 11	兵庫県の「ノリ養殖」－現状と課題－	神戸シルバー大学院	谷田圭亮	水産増殖部
R 3. 1	令和2(2020)年漁期 これまでの経過	養殖ノリの色落ち中期予測等情報交換会	谷田圭亮	水産増殖部
R 3. 3	クロダイによる養殖ノリの食害状況およびノリ養殖漁場周辺におけるクロダイの行動について	兵庫県漁業協同組合連合会	谷田圭亮・高倉良太	水産増殖部、水産環境部
R 2. 6	魚病に関する情報交換	令和 2 年度全国養鰺技術協議会魚病対策研究部会	安信秀樹	内水面
R 2. 9	兵庫県内水面養殖における魚病診断件数の推移	第 34 回近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会	安信秀樹	内水面
R 3. 2	令和2年度のニジマス魚病発生状況・水産用医薬品の適正使用について	令和 2 年度ニジマス魚病防疫講習会	安信秀樹	内水面
R 2. 10	キジハタ親魚の VNN ウイルス保有検査	令和 2 年度西部西日本海ブロック魚類防疫対策協議会	安信秀樹	内水面
R 2. 9	令和元年漁期のアカガレイ漁況と資源調査結果の概要	第 10 回日本海西部あかがれい・ずわいがに広域資源管理検討協議会	大谷徹也	但馬水技
R 3. 2	有害プランクトンの出現動態監視および予察技術開発 日本海西部海域	令和 2 年度漁場環境改善推進事業「赤潮被害防止対策技術の開発」結果検討会	木原浩志・南部智秀・清家 裕・渡辺秀洋・松本洋典・谷口祐介・鈴木雅巳・鬼塚 剛・坂本節子	但馬水技ほか
R 2. 7	ズワイガニ漁況と調査結果の概要	令和 2 年度ズワイガニ研究協議会	田村一樹	但馬水技
R 2. 9	但馬の漁業	みてやま学園	田村一樹	但馬水技
R 2. 9	令和元年漁期のズワイガニ漁況と調査結果の概要	第 10 回日本海西部あかがれい・ずわいがに広域資源管理検討協議会	田村一樹	但馬水技
R 3. 1	ズワイガニの標本船調査から得られた漁期別投棄尾数	令和2年度 EEZ 内資源・漁獲管理体制強化事業分析検討会	田村一樹	但馬水技

(5) ニュース・情報誌等

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
R 2. 5	瀬戸内海の漁場環境変化がノリ養殖に与える影響と対策	環境情報誌 EMATEC 65 号	原田和弘	水産環境部
R 2. 6	今漁期の問題点と今後の対応（瀬戸内地区）	海苔タイムス 2352 号	谷田圭亮	水産増殖部
R 2.10	来たる漁期の生産対策（瀬戸内地区）	海苔タイムス 2363 号	谷田圭亮	水産増殖部
R 3. 1	温暖化に起因する新たな問題「生産量の減少①」	海苔タイムス 2373 号	谷田圭亮	水産増殖部
R 3. 1	温暖化に起因する新たな問題「生産量の減少②」	海苔タイムス 2374 号	谷田圭亮	水産増殖部

(6) センターだより

名 称	号数	提 供 者 名	所 属
水産技術センターだより			
漁海況情報	12	長濱達章	水産環境部
漁場環境情報	12	高倉良太・宮原一隆	水産環境部
カタクチイワシ卵稚仔調査結果（播磨灘）	7	西川哲也	水産環境部
カタクチイワシ卵稚仔調査結果（大阪湾・紀伊水道）	3	魚住香織	水産環境部
イカナゴ親魚、稚仔分布調査結果	2	魚住香織	水産環境部
イカナゴシンコ漁況予報	1	魚住香織	水産環境部
水温観測情報	52	中桐 栄	水産環境部
貝毒情報	79	宮原一隆・中桐 栄	水産環境部
赤潮情報	17	宮原一隆・中桐 栄	水産環境部
ノリ養殖環境速報（播磨灘）	16	高倉良太・宮原一隆・のり研究所	水産環境部・のり研究所
ノリ養殖環境速報（大阪湾）	6	谷田圭亮・岡本繁好・中桐栄・のり研究所	水産増殖部・水産環境部・のり研究所
カキ漁場環境情報	16	谷田圭亮・宮原一隆	水産増殖部・水産環境部
但馬水産技術センターだより			
海況情報	38	鈴木雅巳	但馬水技
漁況情報	25	鈴木雅巳・大谷徹也・田村一樹・齋藤公司	但馬水技・但馬水産事務所
貝毒情報	3	鈴木雅巳・笹江祥加	但馬水技・但馬水産事務所
漁況速報	53	鈴木雅巳	但馬水技
イカ漁況日報	115	鈴木雅巳	但馬水技

(7) 雑誌等

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
R 2. 4	生産量第 4 位：兵庫県 ペットボトル採苗器の実力とバスケット養殖	養殖ビジネス No. 720	谷田圭亮	水産増殖部
R 3. 2	兵庫県産水産物の流通技術開発（日本海産魚類の脂肪含量特性解明）	食品の試験と研究 55, 93-103	川村芳浩	北部農業・加工流通部

(8) 技術書籍等

なし。

(9) 新聞

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
R 2. 5	海の天気図 浜だより～底曳網漁業終了と沿岸漁業盛漁期～	日本海新聞	鈴木雅巳	但馬水技

(10) テレビ・ラジオ

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
R 2. 8	ひょうご発信！#115【教えて!ひょうご】「漁業(内水面漁業)」	サンテレビ	堀 豊	内水面
R 2.12	豊かな海を守ろう！ひょうごシーレンジャー	サンテレビ	中桐 栄 高倉良太	水産環境部

(11) インターネット・ホームページ

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
R 2. 5	開発技術 「ナルトビエイの皮剥ぎ方法」	兵庫県立農林水産技術総合センター	森 俊郎	但馬水技

3 見学会及び研究発表会

(1) 見学会

なし。

(2) 研究発表会

ア 日 時

令和2年9月25日11時～16時

イ 場 所

兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター

ウ 課 題

イカナゴの現在・過去・未来

(発表者：水産技術センター水産環境部主任研究員 魚住香織)

イカナゴの当歳魚の胃内容物からみた餌不足の影響とその要因

(発表者：株式会社日本海洋生物研究所副支店長 橋口晴徳)

かき養殖への挑戦

(発表者：伊保漁協水産研究会 大西正起)

夏眠期の肥満度からイカナゴを科学する

(発表者：水産技術センター水産環境部上席研究員 西川哲也)

大阪湾・播磨灘イカナゴ生活史モデルの開発～イカナゴから栄養塩まで～

(発表者：株式会社日本海洋生物研究所数値解析センター長 市川哲也)

魚食普及のバトンをつなぐ～持続可能な女性部活動の取組～

(発表者：神戸市漁協女性部会長 井上二三枝)

なぜイカナゴが減ったのか？～そのシナリオは～

(発表者：水産技術センター参与 反田 實)

総合質問・ディスカッション テーマ：瀬戸内海の未来

4 特許・実用新案出願・登録状況

【国特許】

職務 発明	提出年月日 認定年月日	特許 登録	出願年月日 登録年月日	内 容	備 考
	H21. 4. 3 H21. 5.18		H21. 6. 1 H24. 4. 4	養殖ノリ「ひょうごはりま薫黒」の品種登録出願	
	H22.10.22 H22.10.25		H23. 1.31 H25. 7.12	バラ干し海苔の製造方法	

発明（出願特許）の概要

発 明 の 名 称	発 明 の 概 要
養殖ノリ「ひょうごはりま薫黒」の品種登録出願	成熟は晩熟で、生長が速く、葉形は線形である。色調は色調低下時に黒い傾向がある。兵庫本来の「色・艶」を兼ね備えており、県産ノリの用途として主力である業務用ノリに適した特性を有している。
バラ干し海苔の製造方法	バラ干し海苔の色の見た目の色の改善を図り、長期間冷凍保存をしても品質や鮮度が劣化しないバラ干し海苔の製造方法を提供する。 バラ干し海苔の製造方法は、採集した原藻を熱湯に浸漬し湯引かせる湯引き工程、次に、脱水工程、その後、乾燥工程、から成る。これに加えて、原藻を湯引き後に凍結保存を行うことにより、原料として長期保存が可能となり、時期・量を問わずバラ干し海苔を供給できる。本バラ干し海苔の製造方法によれば、バラ干し海苔の保存性や風味を向上できる。

5 学位・表彰等

なし。

6 研究員の派遣

なし。

7 研修生・見学者の受け入れ

(1) 一般研修生の受け入れ

団体又は組織	人 数	研 修 課 題	期 間	受け入れ部門
生野小学校（教諭）	1 名	社会体験研修	R2. 7. 21	内水面漁業セ
マルヤ水産	5 名	水産加工の基礎、品質評価方法	R2. 4. 9	但馬水技セ (現地)
但馬漁協	1 名	ホタルイカの加工(干製品)	R2. 5. 14～15	但馬水技セ (加工実験棟)
三尾ワカメ生産組合 新温泉農業改良普及 センター	9 名	ワカメの加工(塩蔵品)	R2. 6. 3～4	但馬水技セ (現地)
但馬漁協	1 名	ホタルイカの加工(干製品)	R2. 6. 4～5	但馬水技セ (加工実験棟)
但馬漁協	1 名	ホタルイカの加工(干製品)	R2. 6. 23～24	但馬水技セ (加工実験棟)
但馬水産事務所	2 名	ドスイカの加工（干製品、茹で製品）	R2. 6. 23～24	但馬水技セ (加工実験棟、利用 加工研究室)
東洋食品工業短期大 学	4 名	ホタルイカの加工（茹で製品）	R2. 6. 26	但馬水技セ (加工実験棟)
角谷製菓	1 名	ズワイガニの加工（干製品）	R2. 7. 13～15	但馬水技セ (加工実験棟)
角谷製菓	1 名	ズワイガニの加工（干製品）	R2. 8. 25～27	但馬水技セ (加工実験棟)
加西農業改良普及セ ンター、元源	計 2 名	サトイモの保蔵（凍結、冷凍保護処理）	R2. 9. 3	但馬水技セ (加工実験棟)
吉備国際大学学生	11 名	水産物加工学 ～試験研究の現場から見た水産加工の 基礎～	R2. 9. 7～11	但馬水技セ (現地)

県立農林水産技術総合センター、農業改良普及センター	計4名	令和2年度普及指導員研修 技術強化Ⅱ研修～試験研究の現場から見た水産加工の基礎～	R2. 9. 16	但馬水技セ (技術研修室)
但馬水産事務所	1名	ムラサキウニの加工(鮮魚)	R2. 9. 16	但馬水技セ (利用加工研究室)
但馬水産事務所、但馬漁協、浜坂漁協	計11名	ドスイカの加工(油ちょう品、練り製品、干製品)	R2. 10. 19～20	但馬水技セ (加工実験棟、利用加工研究室)
加西農業改良普及センター、元源	4名	冷凍さといもの品質評価	R2. 10. 26	但馬水技セ (利用加工研究室)
但馬水産事務所、但馬漁協	計9名	ムラサキウニの加工(塩蔵品)	R2. 10. 28	但馬水技セ (利用加工研究室)
但馬水産事務所	1名	ドスイカの加工(調味加工品、干製品、練り製品、油ちょう品)	R2. 11. 24～26	但馬水技セ (利用加工研究室)
但馬水産事務所	2名	ドスイカの加工(燻製品、干製品、焼き製品、調味加工品)	R2. 12. 8～10	但馬水技セ (加工実験棟、利用加工研究室)
新温泉農業改良普及センター	1名	ワカメの加工(干製品)	R2. 12. 21～22	但馬水技セ (加工実験棟)
若男水産、洲本農林水産振興事務所	7名	トラフグ(卵)の加工(発酵食品)	R3. 1. 13	但馬水技セ (現地)
但馬管内の漁協、加工協、観光組合、但馬水産事務所他	計45名	ズワイガニの保蔵(黒変防止方法)	R3. 2. 16	但馬水技セ (現地)
ながすな繭	2名	絹製品の加工(レトルト殺菌)	R3. 2. 17	但馬水技セ (加工実験棟、利用加工研究室)
但馬水産事務所	1名	ドスイカの加工(燻製品、干製品、焼き製品、調味加工品、油ちょう品、練り製品)	R3. 3. 1～3	但馬水技セ (加工実験棟、利用加工研究室)
ゆらく朝市広場	2名	ズワイガニの保蔵(黒変防止方法)	R3. 3. 3	但馬水技セ (利用加工研究室)
若男水産、洲本農林水産振興事務所	計3名	トラフグ(卵)の加工(発酵食品)	R3. 3. 11	但馬水技セ (現地)
但馬水産事務所	1名	ズワイガニの保蔵(黒変防止方法)	R3. 3. 25	但馬水技セ (加工実験棟)

(2) トライやるウィーク体験事業

学 校 名	研 修 課 題	期 間	受け入れ部門
朝来中学校4名(1日間)	飼育水槽・人工河川掃除、飼育魚への給餌	R2. 10. 29	内水面漁業セ
香住第一中学校5名(1日間)	ニギス練り製品の加工実習	R2. 10. 21	但馬水技、北部農業・加工流通部

(3) 受託研修・国際交流課からの依頼による研修の受け入れ

なし。

(4) 見学者の受け入れ

【水産技術センター】

年.月	件数	人数 (合計)	人数 (内訳)			
			漁業 関係	学校 関係	行政 関係	一般 県民
R 2. 4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
7	2	7	0	2	0	5
8	7	20	0	20	0	0
9	3	125	13	112	0	0
10	6	485	0	446	0	51
11	1	63	0	63	0	0
12	0	0	0	0	0	0
R 3. 1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
3	1	30	0	0	30	0
合計	20	742	13	643	30	56

【内水面漁業センター】

年.月	件数	人数 (合計)	人数 (内訳)			
			漁業 関係	学校 関係	行政 関係	一般 県民
R 2. 4	53	99	34	4	7	54
5	31	125	6	0	1	118
6	33	78	0	0	7	71
7	23	36	0	2	3	31
8	14	36	0	15	4	17
9	8	9	0	0	4	5
10	29	48	1	16	0	31
11	29	50	22	0	1	27
12	11	12	0	0	0	12
R 3. 1	16	23	0	6	0	17
2	10	12	0	0	0	12
3	30	62	0	0	2	60
合計	287	590	63	43	29	455

※ 4～6 月及び 8～9 月は新型コロナウイルス感染防止対策のため、12～3 月は施設改修のため一般見学を休止

【但馬水産技術センター】

年.月	件数	人数 (合計)	人数 (内訳)			
			漁業 関係	学校 関係	行政 関係	一般 県民
R 2. 4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0
10	3	17	0	17	0	0
11	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0
R 3. 1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0
合計	3	17	0	17	0	0

【但馬水産技術センター】

(北部農業技術センター農業・加工流通部 担当分)

年.月	件数	人数 (合計)	人数 (内訳)			
			漁業 関係	学校 関係	行政 関係	一般 県民
R 2. 4	1	4	2	0	0	2
5	15	26	22	0	1	3
6	21	44	12	4	12	16
7	10	28	13	0	4	11
8	10	24	11	0	6	7
9	15	47	8	0	17	22
10	20	74	22	05	27	20
11	9	21	1	0	9	11
12	6	36	0	0	17	19
R 3. 1	2	2	0	0	1	1
2	23	48	16	0	16	16
3	39	49	21	0	17	11
合計	171	403	128	9	127	139

(加工相談のうち来訪分)

8 資格・認定研修への講師派遣

(1) 水産加工食品製造業技能評価試験への試験官派遣

主催者：全国水産加工業協同組合連合会

試験官・(部署)：森 俊郎 (但馬水産技術センター)

参集範囲：但馬管内の水産加工業者

研修名 参集範囲・人員	主催者 研修内容	講師・(部署)	時期
水産加工食品製造業技能評価試験 但馬管内の水産加工業者・6 名	全国水産加工業協同組合連合会 水産加工食品製造業技能評価試験 (初級)	森 俊郎 (但馬水産技術センター) 調味加工品 3 名 乾製品 9 名の試験官	R2. 10. 14
水産加工食品製造業技能評価試験 但馬管内の水産加工業者・8 名	全国水産加工業協同組合連合会 水産加工食品製造業技能評価試験 (専門級)	森 俊郎 (但馬水産技術センター) 干製品 8 名の試験官	R2. 10. 14

9 その他（出版物等）

- ・令和元年度 兵庫県農林水産技術総合センター年報（水産編）